



2 学期もご理解・ご協力、大変ありがとうございました

昨日までの個人懇談もご多用の中、ご参加ありがとうございました。お子さんの成長やこれから超えさせたい課題は明確になったでしょうか？

早いもので、2 学期も残すところ、終業式 1 日となりました。もう年の瀬ですね。1 年間を振り返って、子どもたちや保護者の皆様の心に残っていることは何でしょうか？

学校は 150 年を迎えたことなど、様々な出来事がありました。私たち日本人に元気を与えてくれたのは、何と言っても「大谷翔平選手」ではないでしょうか。大谷選手は、子どもたちにとっても、私たち日本人にとっても、自身の描いた夢をどんどん現実に変えている今を生きる「ヒーロー」です。WBC の最終戦に臨む「憧れるのをやめましょう。」は有名な言葉となりましたが、「超えるためにここに来たんだ。」という意気込みに感動しました。子どもたちにも、具体的に夢を描いて、一つ一つ実現していき、夢を現実にし、羽ばたいてほしいと強く願っています。

JICA(国際協力機構)出前講座(創立 150 年記念事業)第 1 回

～12 月 18 日(月)1 年生、3・4 年生、6 年生が学習しました～

創立 150 年の節目にあたり、妻鳥土地改良区の協 理事長 様より、「未来に羽ばたく『愛雛(えひな)っ子』にグローバルな視点での学びを」と、妻鳥土地改良区の御後援をいただき、全学年が JICA 愛媛との交流である国際理解教育の機会を設けました。

1 回目は、1、3、4、6 年生が交流を行いました。

1 年生は、JICA 愛媛デスクの大石さんから、海外青年協力隊で生活していたセネガルについてや、世界にはいろいろな国があり、たくさんの人がいて、いろんな文化があることをクイズ形式で分かりやすくお話していただきました。

3・4 年生は、大石様が協力隊としてセネガルやタイで生活していたお話を聞き、「JICA 海外青年協力隊とは～あなたが外国人になること～」というテーマで学習しました。様々な国の挨拶でゲームをしました。ゲームでは、世界で話されている人の割合で準備された言語の挨拶カードが配られ、カードに書かれた挨拶をすることで、自分と同じ言語の人を見つけていくというものでした。このゲームを通して、日本にいる外国から来た人の気持ちを疑似体験することができました。そして、地域に住む外国の人の気持ちを思いやって生活しようとしていただきました。

6 年生は、留学生お二人が加わってくださって、自国の文化や生活についてのお話を聞きました。ザンビアのチポさんからはザンビアの歓迎の挨拶の仕方を教えてもらって二人組で体験したり、ナイジェリアのアントニアさんからはダンスを教えてもらってみんなで音楽に合わせて踊ってみたりと体を使って、文化に親しむことができました。お二人とも英語しか話すことができなかったのも、子どもたちは知っている単語を聞き取ろうと一生懸命聞いていました。大石デスクが後で分かりやすく通訳してくださって、子どもたちは、大石デスクのように英語が話せたり聞き取ったりできるようになりたいなと思ったと思います。世界に目を向けるきっかけになる学びの時間でした。このような機会をくださった、土地改良区の方々、JICA 愛媛の皆様にご心よりお礼申し上げます。1 月 15 日(月)には、2 年生、5 年生が交流を予定しています。

